

鰻魚？



取回神力
為什麼
需要鰻魚？

以前
吃了鰻魚
就恢復了

恢復神力的契機
各種各樣

只能參照
過去的經驗
一一嘗試了

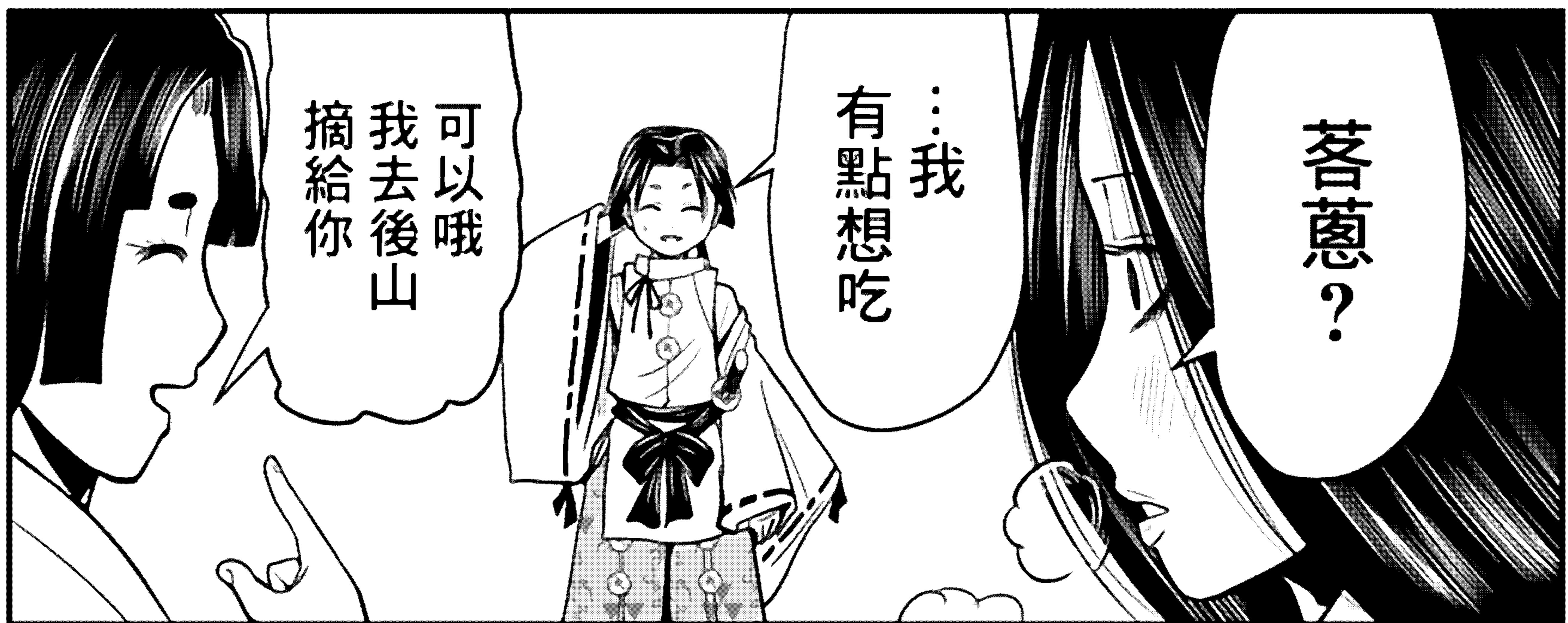


冬季
脂肪充足
肉質柔軟

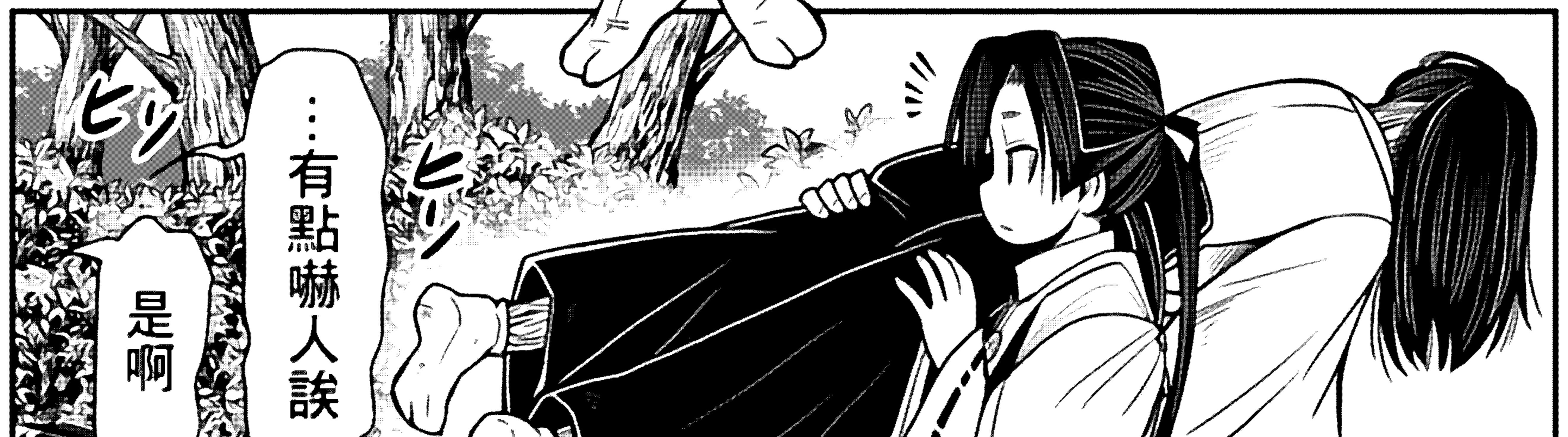
鰻魚可是
諏訪名產

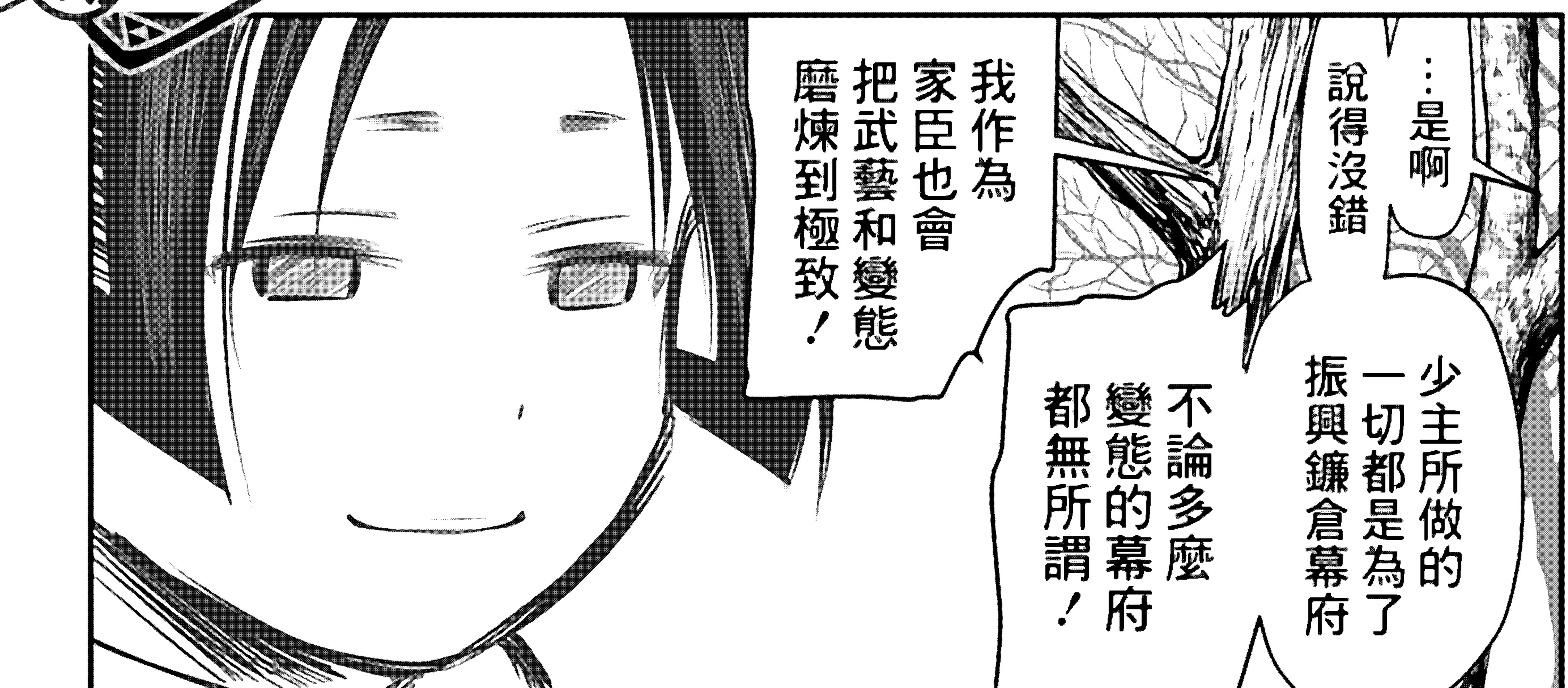
吃了
渾身充滿
力量……

可惜神力
還是回不來
契機好像
不是鰻魚



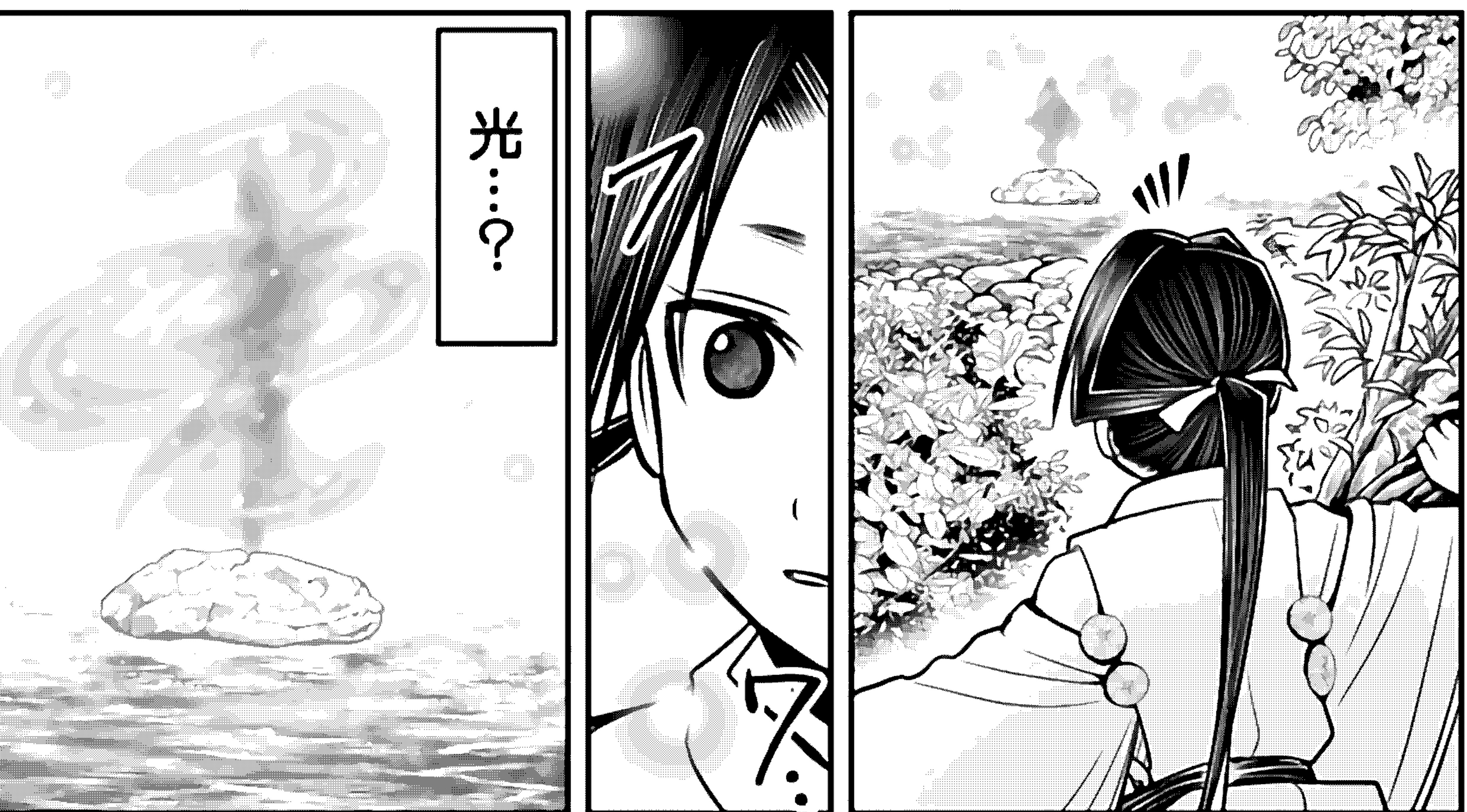
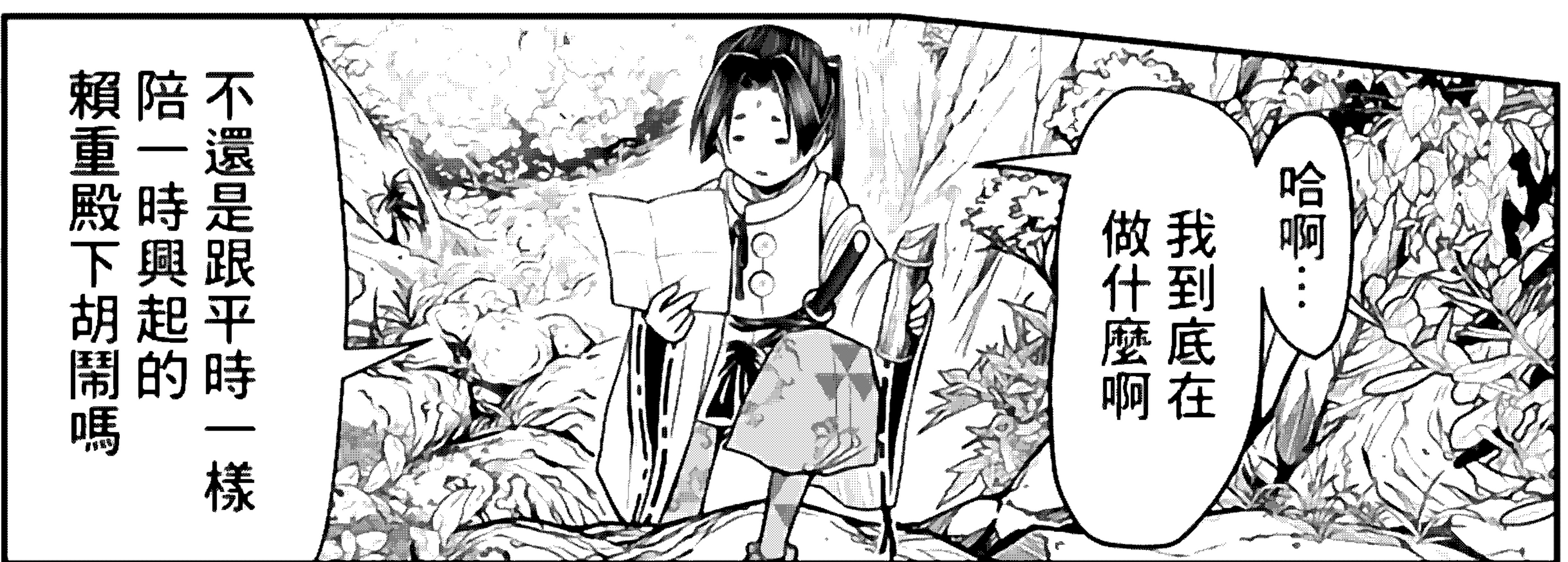




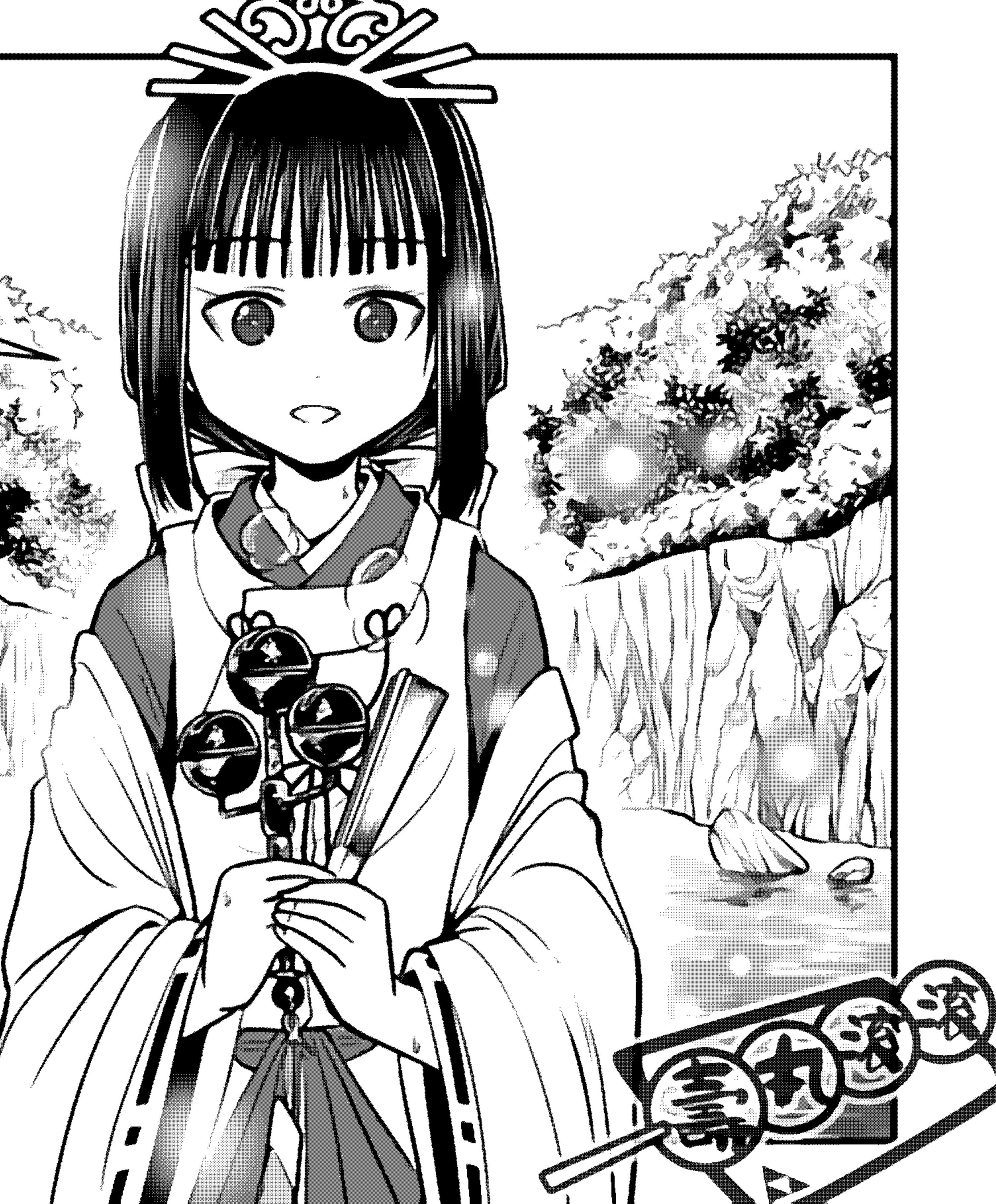
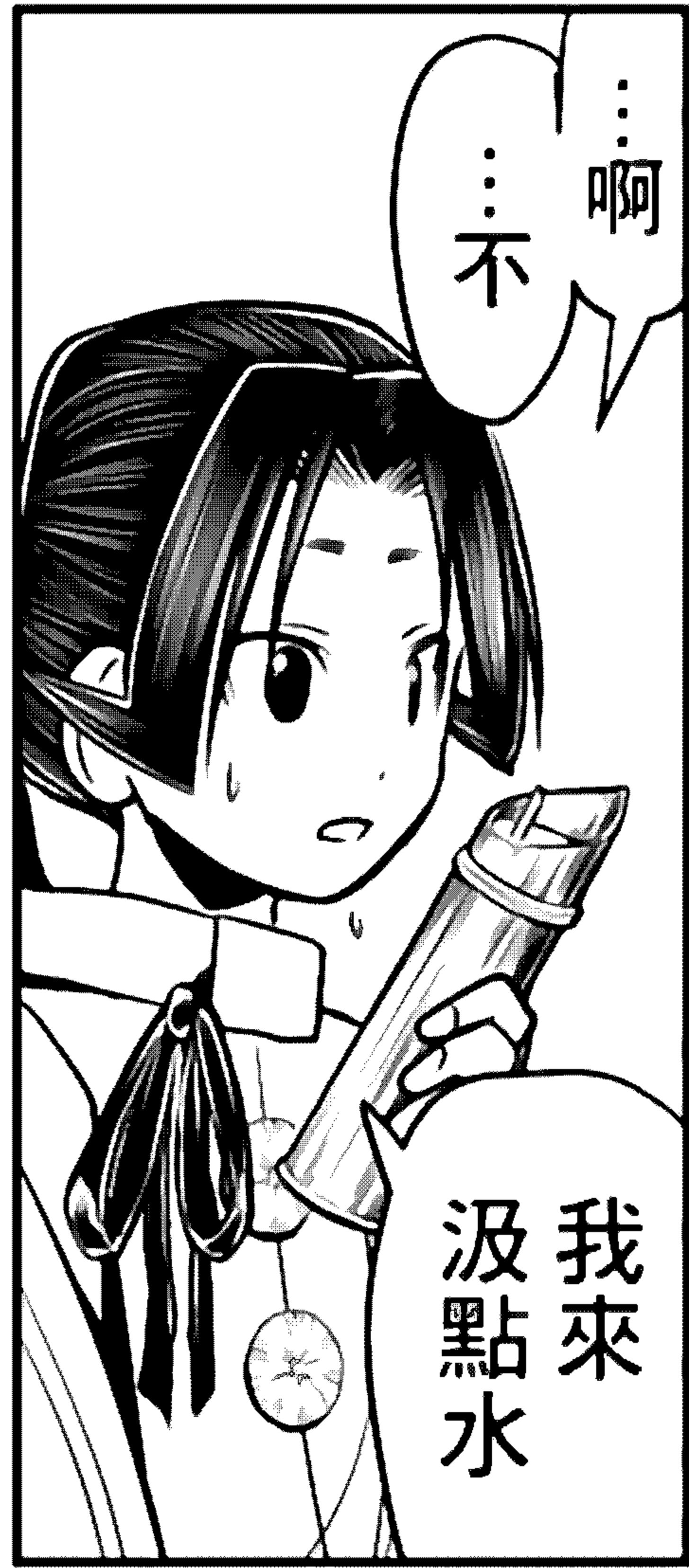
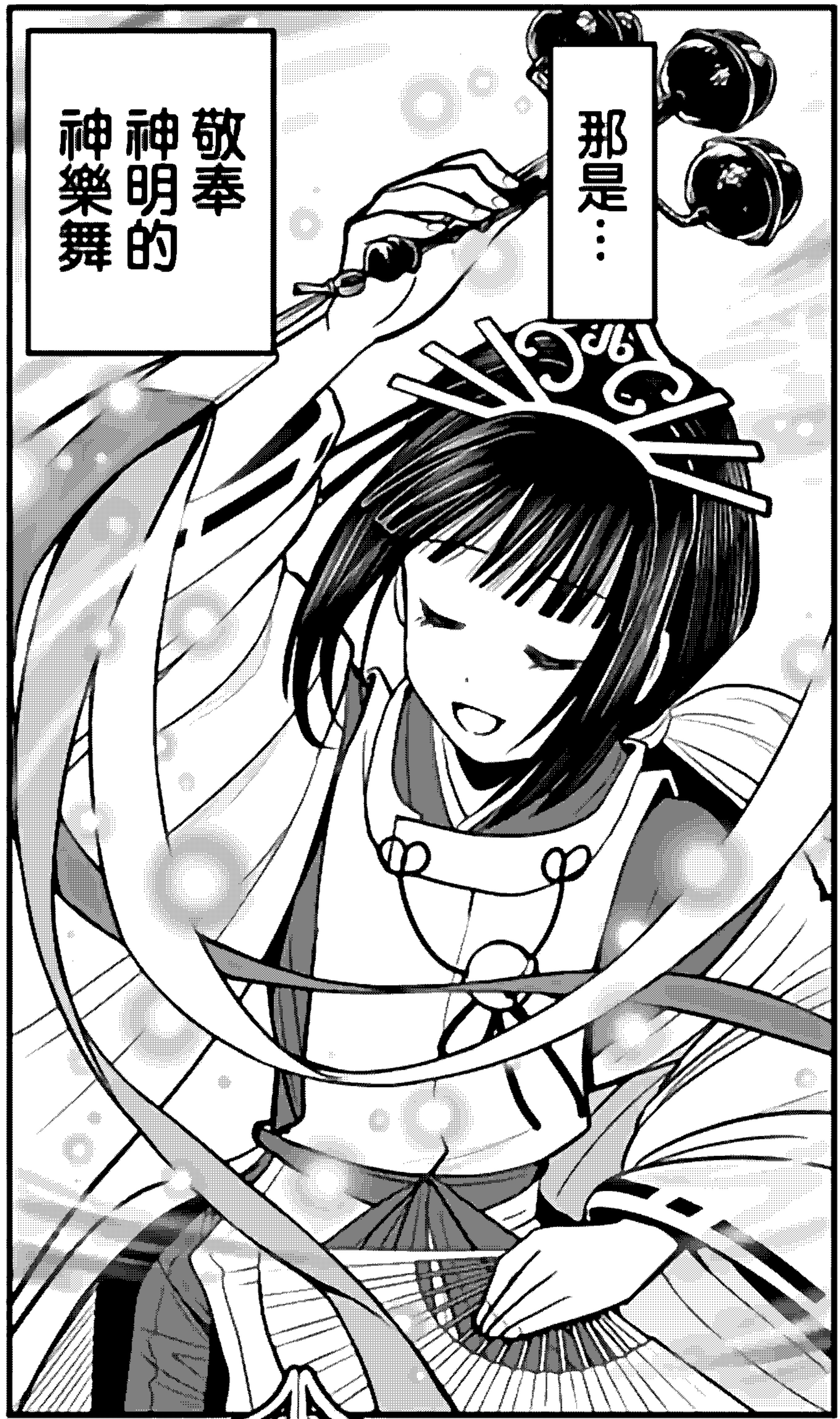








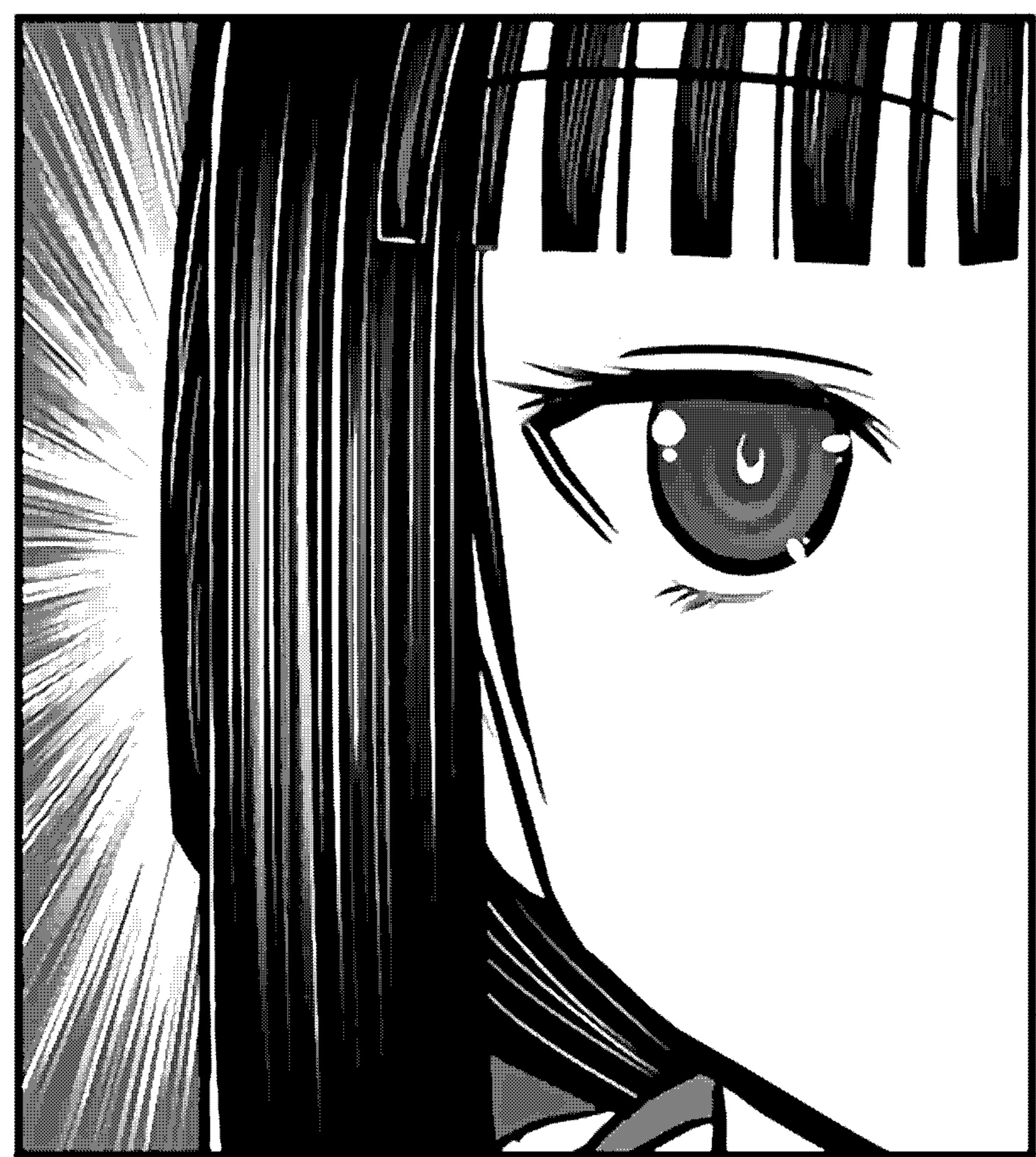




@

嵌字 Mosa

漫威連合會



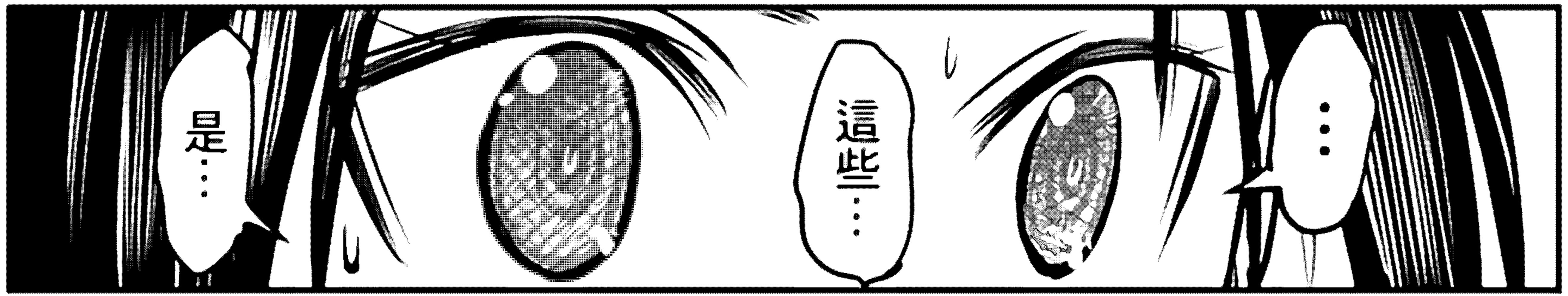




禁營利禁講漫禁盜博

漫威連合會

@

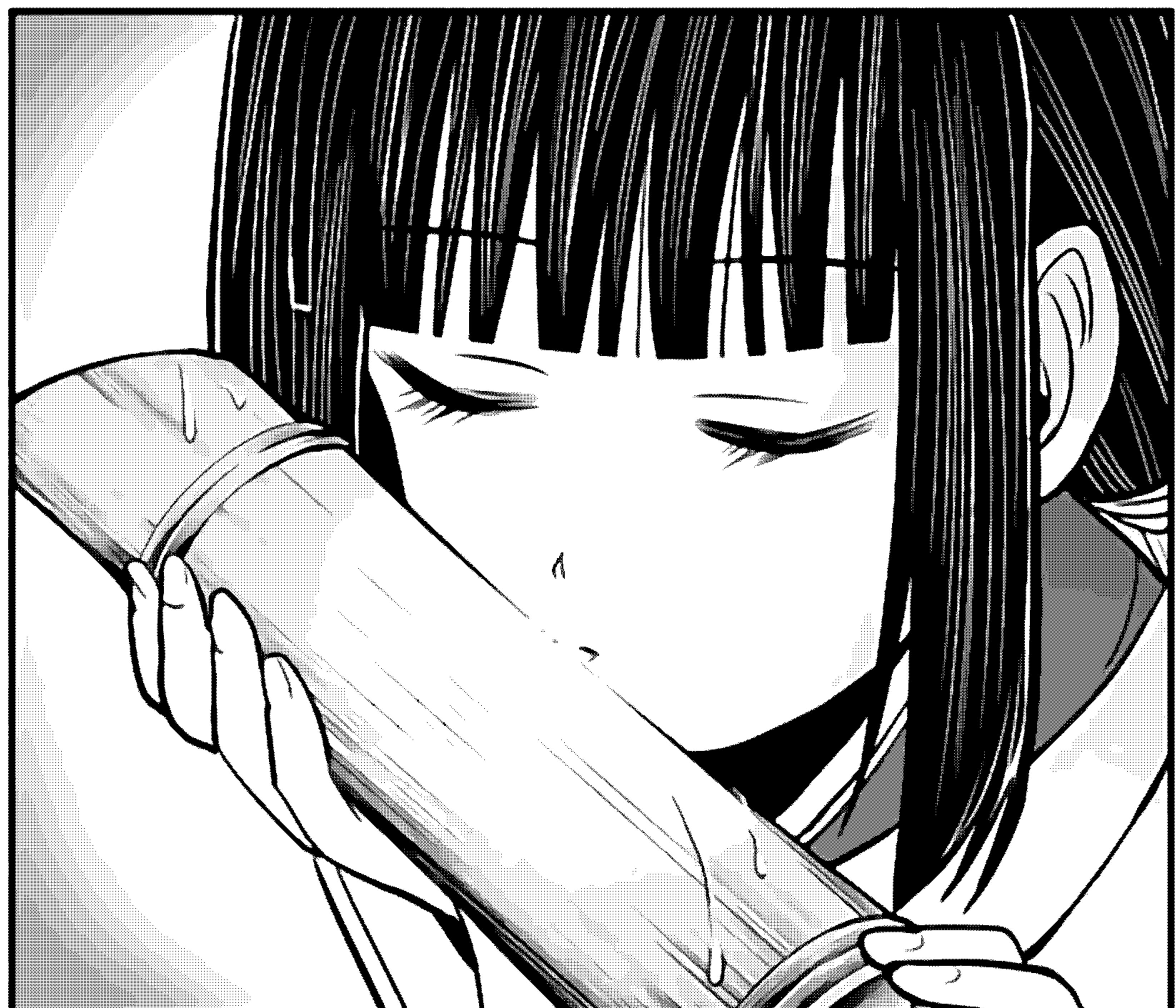
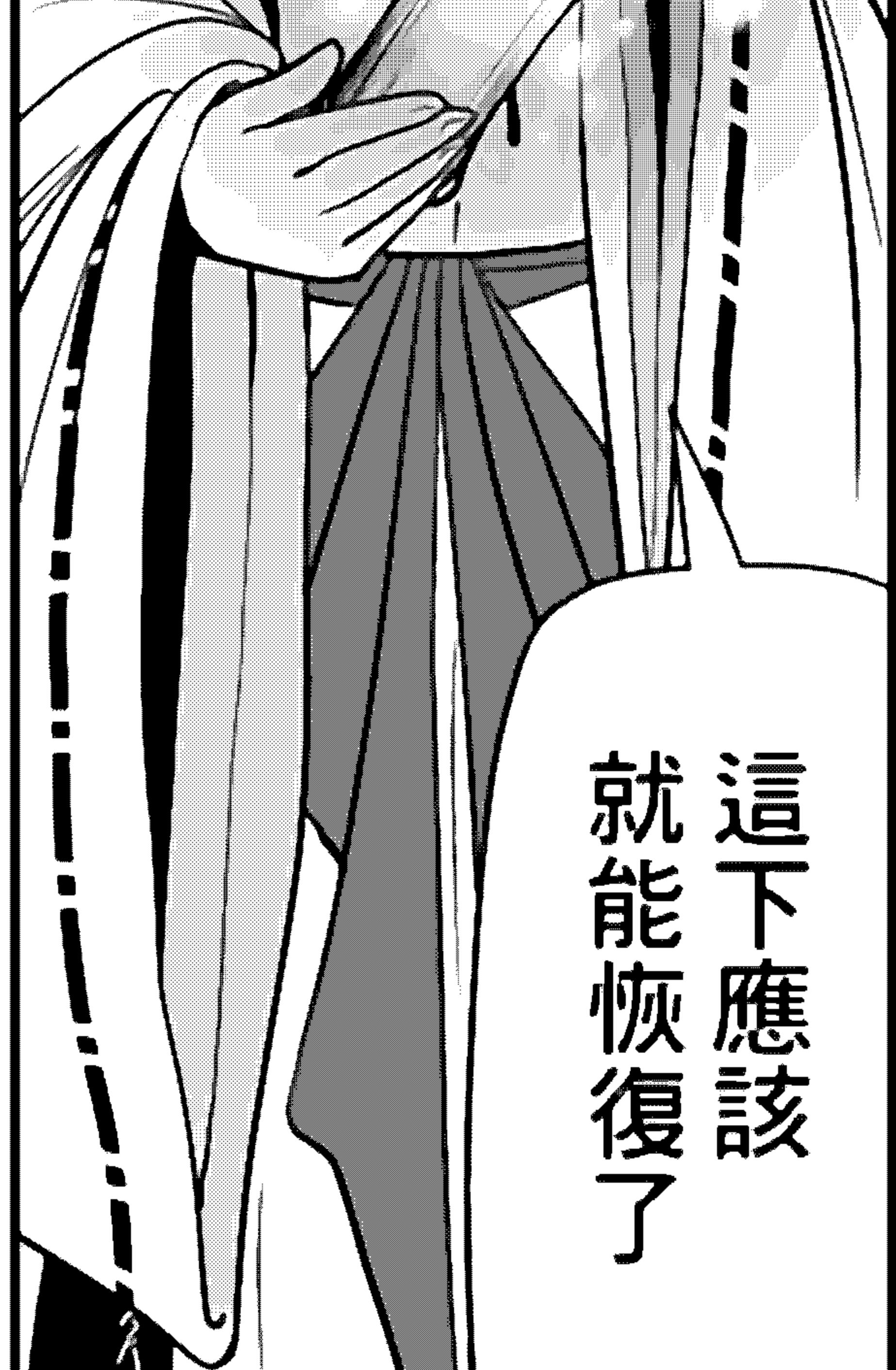
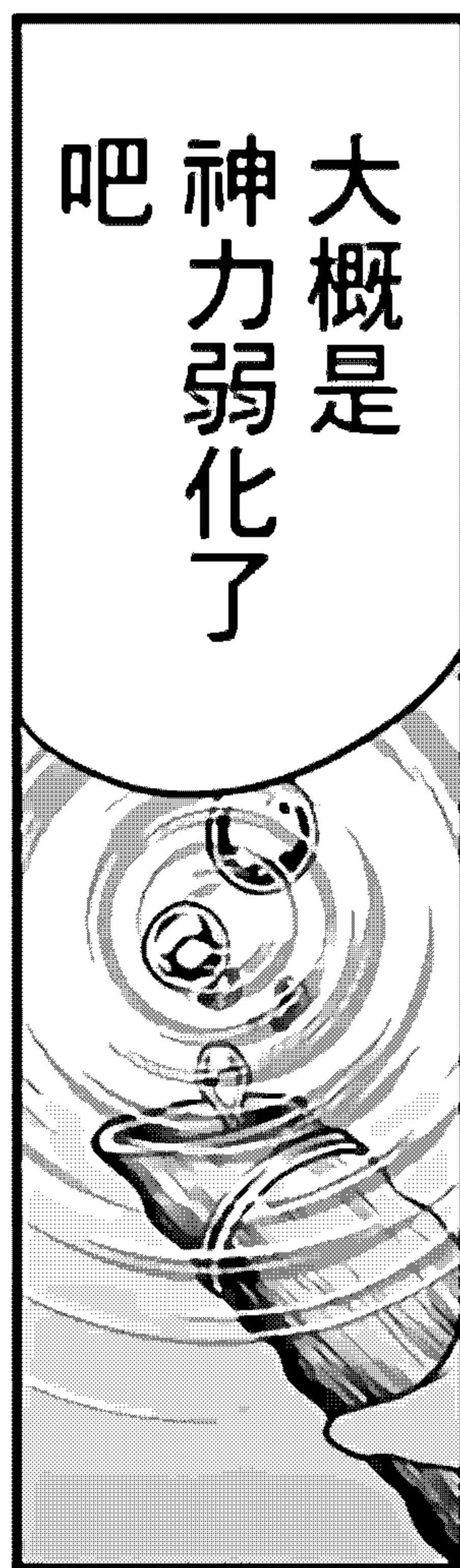
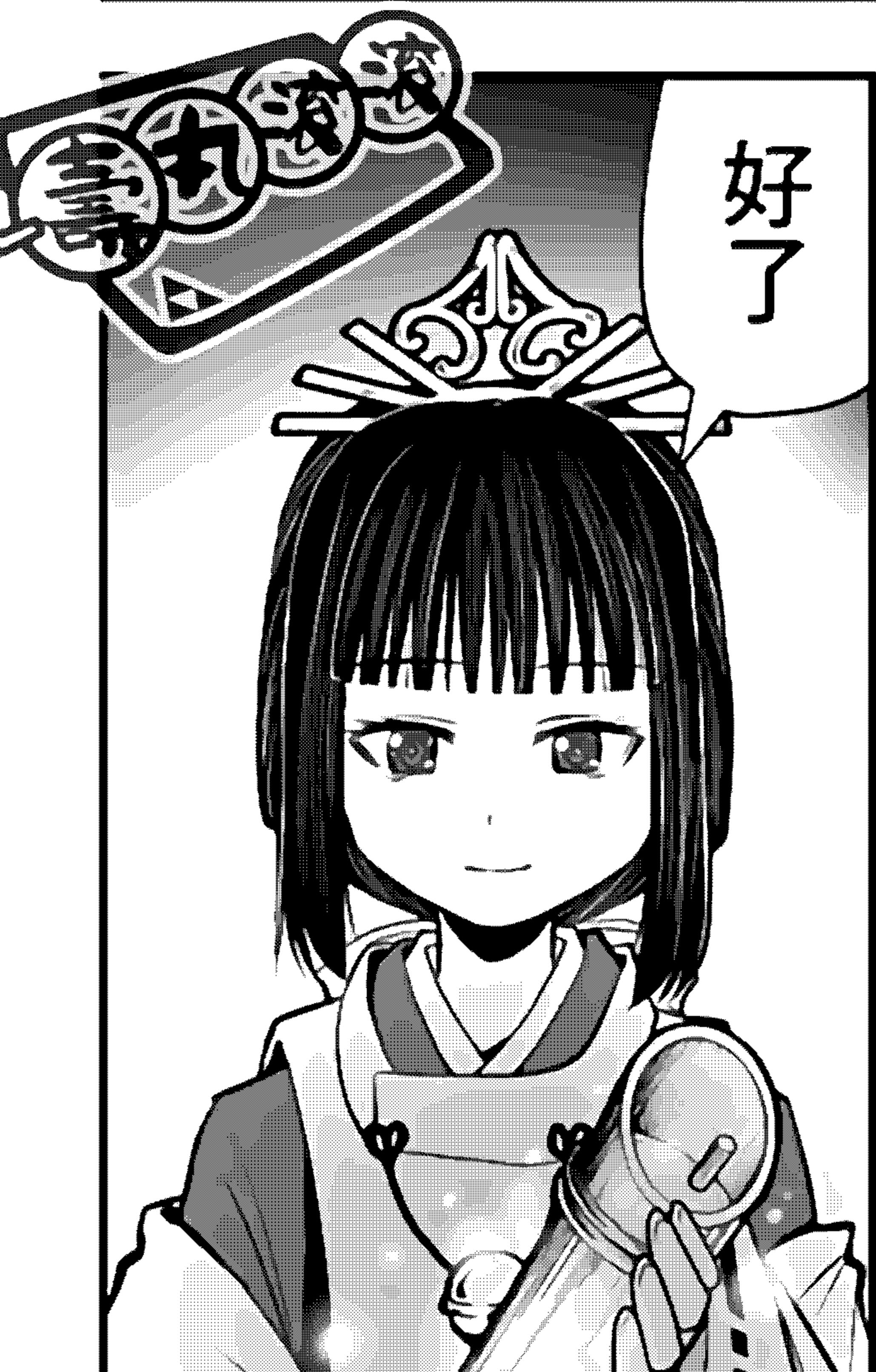
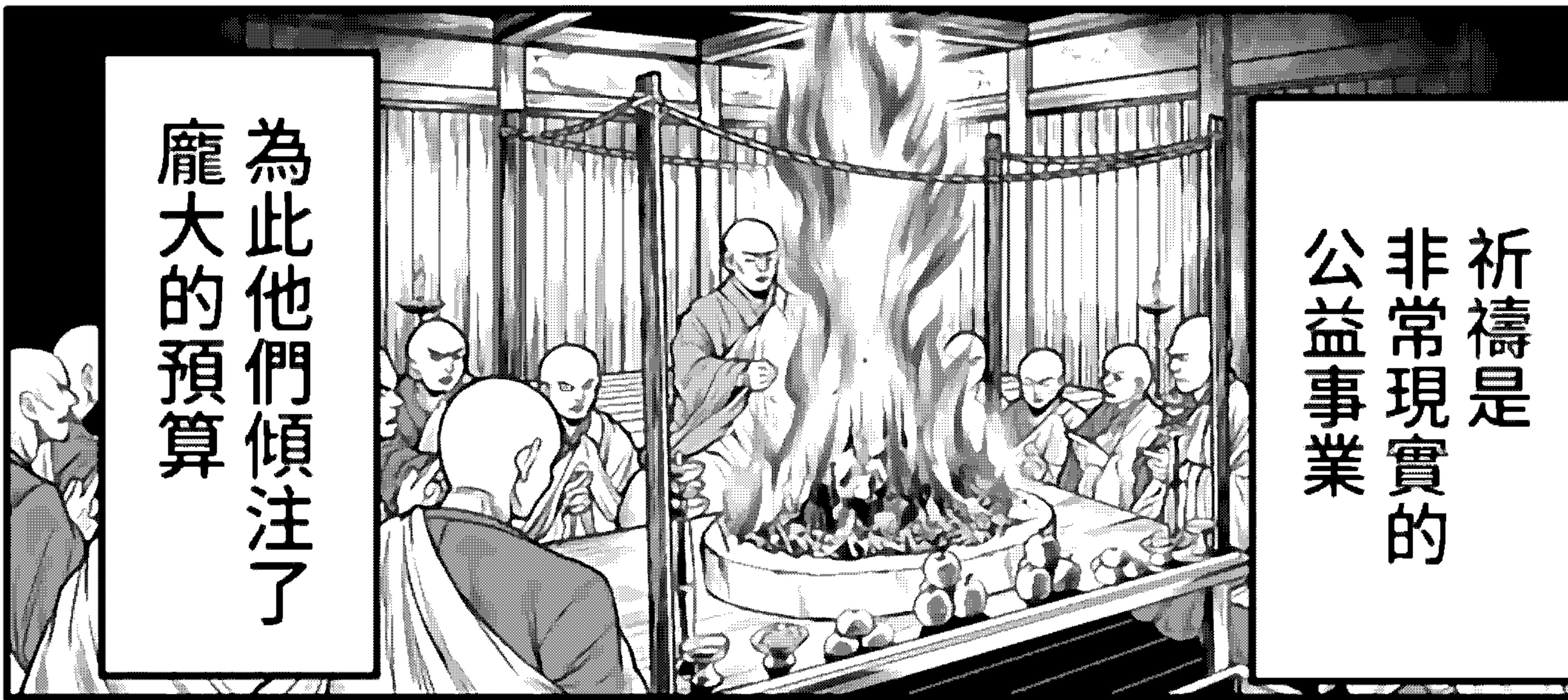




當時對這個國家而言

祈禱是非常現實的
公益事業

為此他們傾注了龐大的預算



窺見了
不可思議的
一隅

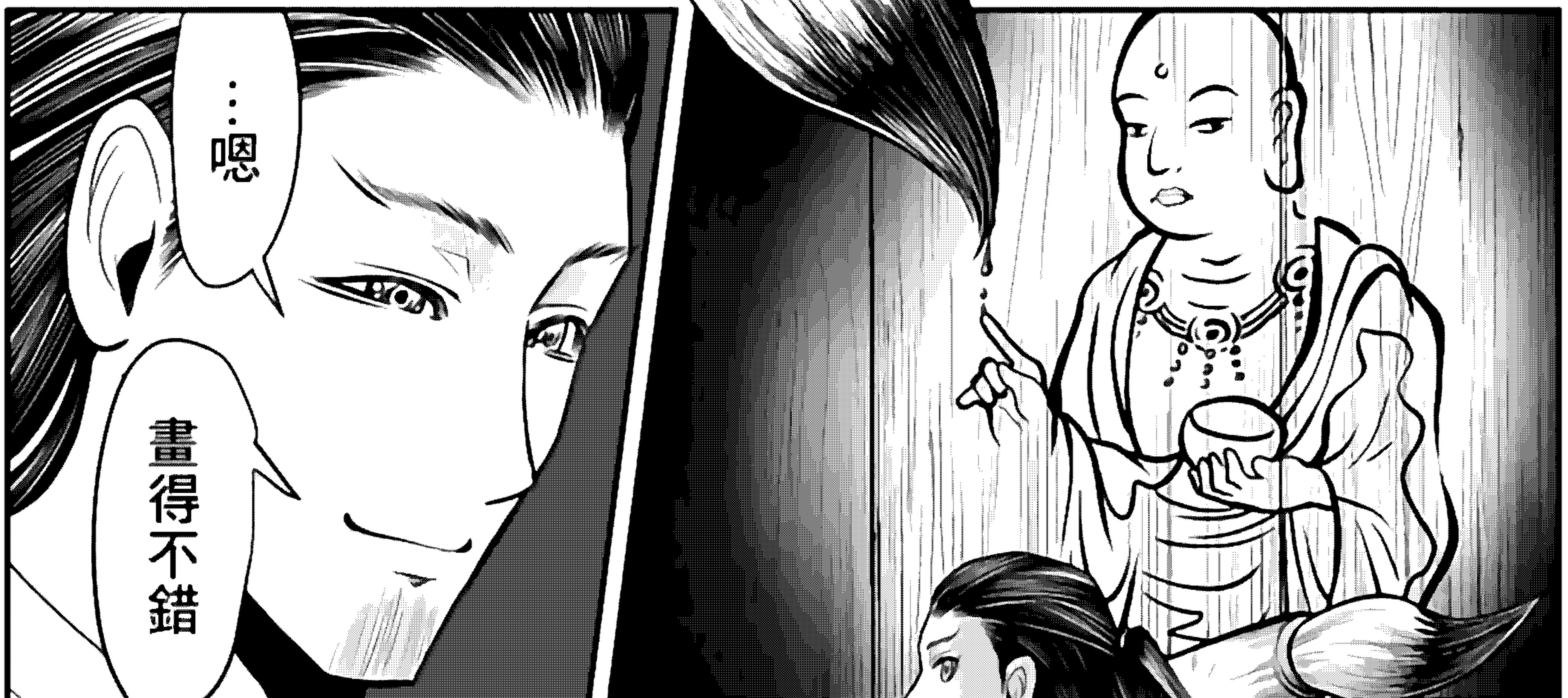
但一切都
朦朧不清都

看起來都是些
無法影響現世的
微弱的存在

賴重殿
下爲何要讓我
看這些

我也
並不了解你

栗
以及



第24話

本話完

解説上手若君

不思議な出来事が史実として記録されていたとは何事?解説するぞ~!

解説 本郷和人

1960年 篤生まれ。歴史の研究者である東京大学歴史博物館所長。おっちょこちょいでテレビや雑誌にも出演する。

当時の不可思議について



知識を蓄える快樂を
知つた顔をしているな

死蝶

平安時代は、真言密教がトップエリートたちに信仰されていました。この宗派の儀式（加持祈祷というヤツ）では神秘的な現象が数多く見られるとされ、だからこそ貴い、と考えられていました。善い神さまが実在するということは、悪い鬼なども当然いると想定されていました。

ところが平安末期の今様（庶民の歌謡）には、こんなものがあります。「仏は常にいませどもうつつならぬぞあはれなる！」現代語訳すると

▼ 当時は不可思議が事実として扱われていたの?

「仏は常にいらっしゃるけれど、現実にそのお姿を見ることができないことが、しみじみと尊いことだ……」

どうです。この歌。仏が本当にいるのかどうか、

人々が疑問を持ち始めているように思いませんか？

鎌倉時代の知識人である貴族には、きわめて合理的な精神をもつた人が現れます。たとえば徳大寺実基（太政大臣）という人。「上皇の離宮を建てるため、地なしをした。するとたくさん蛇が密集していた。みな驚き、土地の神と思われる蛇が見つかりましたと上皇に申し上げた。どうしたらよいか、と上皇が尋ねると、実基は「天皇が治める土地にすむ動物が、天皇に祟るなどありえない。捕まえてみな捨ててしまえ」と指示した。そうしたところ、祟りは全くなかった。」

後醍醐天皇の側近に日野資朝という優秀な貴族がいた。腰の曲がった老僧を見て、西園寺内大臣が「ああ、貴い」と感動している様子を見て、「年を取っているだけだろ」と言い放った。その上で、よほよほのむく大を内大臣邸に送りつけ「いやあ、貴く見えますなあ」と言った。まあ、鎌倉時代にはこれくらいのリアリストが出現していました。これでは、お化けの出る幕はありません。そういうわけで、町時代になると、妖怪変化の話がなくなるのです。



↑いまのところ若者は鎌倉時代の終わりですのでギリギリ不思議なものは不思議なりに信じられていたのです。

翻譯

我不做人了

毒丸滾滾漢化

卷末語

雖然我盡力
讓角色不說外來語
但還真沒找到
能代替「大變態」的詞：

校對

古今分殘丘

首發微博

@混成連合會

歡迎加入漢化

順位 3 / 19

W J 2 0 2 1 N O . 32

安字

MOSA

測試群

648466051

少·王濶得快

第 24 話

監製

三十二